

第36回

日本眼腫瘍学会

The 36th Annual Meeting of Japanese Society of Ocular Oncology



写真提供：金沢市

境界領域への挑戦!!

プログラム・講演抄録集

会期

2018年

11月3日(土)祝・4日(日)

会場

金沢市アートホール
(JR金沢駅前)

会長

高比良 雅之 (金沢大学 眼科)

第36回日本眼腫瘍学会 事務局

〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1 金沢大学眼科内

TEL:076-265-2403 FAX:076-222-9660

E-mail:js002018@med.kanazawa-u.ac.jp

©2013 石川県

ひやくまんさん #0643





The 36th Annual Meeting of
Japanese Society of Ocular Oncology

第36回

日本眼腫瘍学会

|||| プログラム・講演抄録集

境界領域への挑戦!!

会期 2018年 11月3日(土)祝・4日(日)

会場 金沢市アートホール (JR金沢駅前)

会長 高比良 雅之 金沢大学 眼科

主催 日本眼腫瘍学会

URL <http://square.umin.ac.jp/js002018/>

事務局 第36回日本眼腫瘍学会事務局

〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1 金沢大学眼科内

TEL: 076-265-2403 FAX: 076-222-9660

E-mail: js002018@med.kanazawa-u.ac.jp

第36回日本眼腫瘍学会 開催にあたり



会長 高比良 雅之 金沢大学 眼科

この度、第36回日本眼腫瘍学会を金沢で開催させていただくこととなりました。伝統ある本学会の会長を拝命し、学会員ならびに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

「眼腫瘍」という分野は、例えば白内障や緑内障といった代表的な眼疾患に比較すればその症例数は少ないですが、病態によっては失明の危機のみならず生死にかかわることがあり、大切な領域と考えます。今後も社会の高齢化に伴います症例数も増えるものと予想されます。そのような背景のなか近ごろ具体化した活動としては、希少がん対策ワーキングを中心とした診療支援の啓蒙活動や、眼腫瘍の全国登録システム構築やガイドライン作成のための研究が進行中で、今後も本学会が中心となってそのような活動が継続し拡大することが望まれます。また、他領域では様々な腫瘍に対する分子標的治療薬の開発や導入の動きが目覚ましく、今後は眼腫瘍における適用が広がることも期待されます。

今回は学会のテーマを「境界領域への挑戦!!」と称して、眼腫瘍の周辺疾患や背景となる病態にも注目したいと考え、そのひとつとして、悪性腫瘍との関連が深い炎症性疾患であるIgG4関連疾患の特別講演を企画しました。IgG4関連疾患は私自身が2004年に初めての症例を経験して以来、大変に思い入れの深い病態です。昨年の本学術集会でもそのシンポジウムが企画され、そこでは眼領域の病態についての最近の知見をアップデートしました。今回は、他科の観点から特に悪性腫瘍との関連について、内科、病理、放射線科の先生方にご講演をいただきます。また、もうひとつの「境界領域への挑戦!!」の企画として、血管腫とその異同が問題ともなる血管奇形などの類縁疾患に関するシンポジウムを予定しています。網脈絡膜、眼瞼・結膜、眼窩の血管腫とその類縁疾患を第一線で診療されている先生方にご登壇いただき、会場からの活発な討論を期待いたします。

開催地の金沢では、北陸新幹線の開業以来、街の様子が一変しました。特に休日には大変込み合いますが、観光名所や施設も随分整備されましたので、金沢は久しぶりだという方々にもその変貌ぶりを満喫していただけるものと思います。ようこそ金沢へ。

会場アクセス図

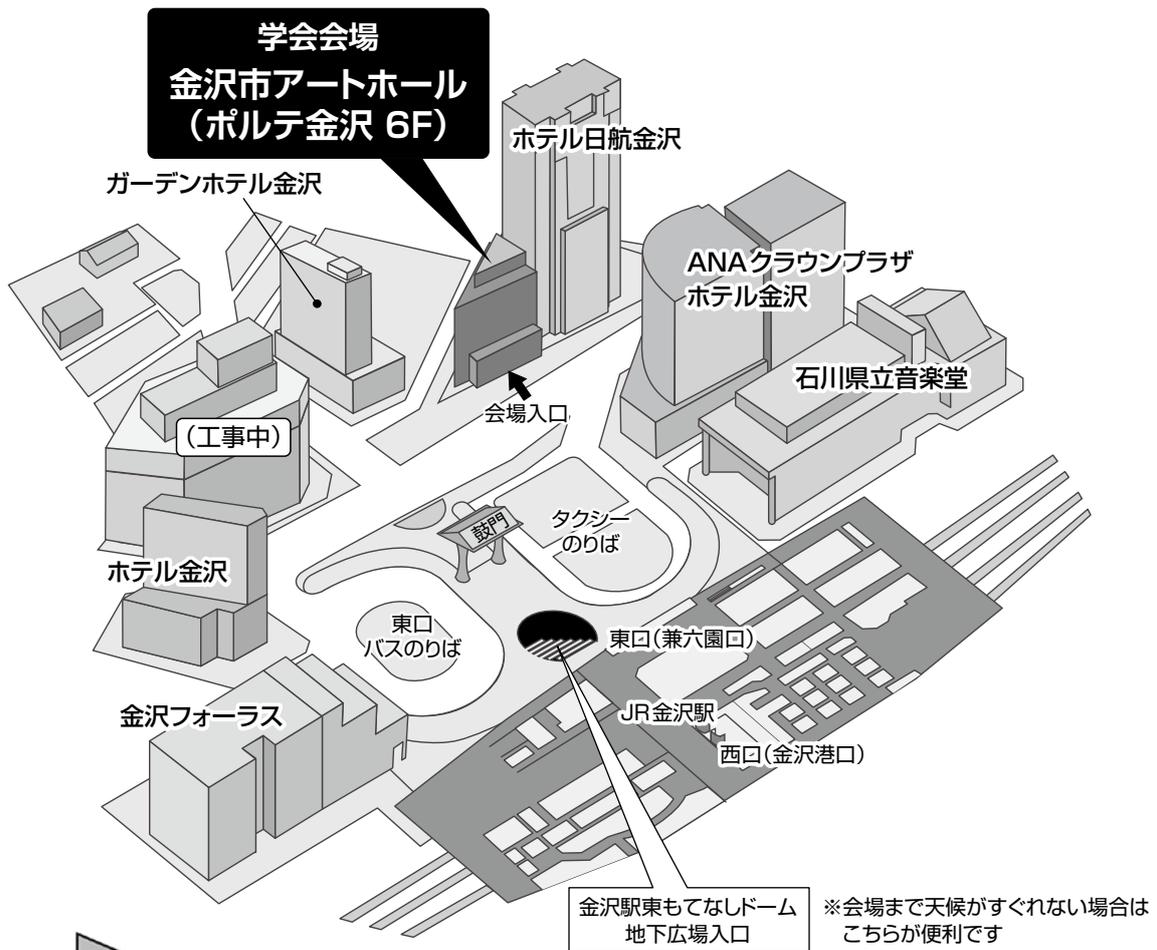
金沢へのアクセス

鉄道を利用

- 東京から 約2時間30分(北陸新幹線「かがやき」利用)
- 大阪から 約2時間30分(特急「サンダーバード」利用)
- 名古屋から 約2時間30分(東海道新幹線「ひかり」
→ 米原乗り換え → 特急「しらさぎ」利用)

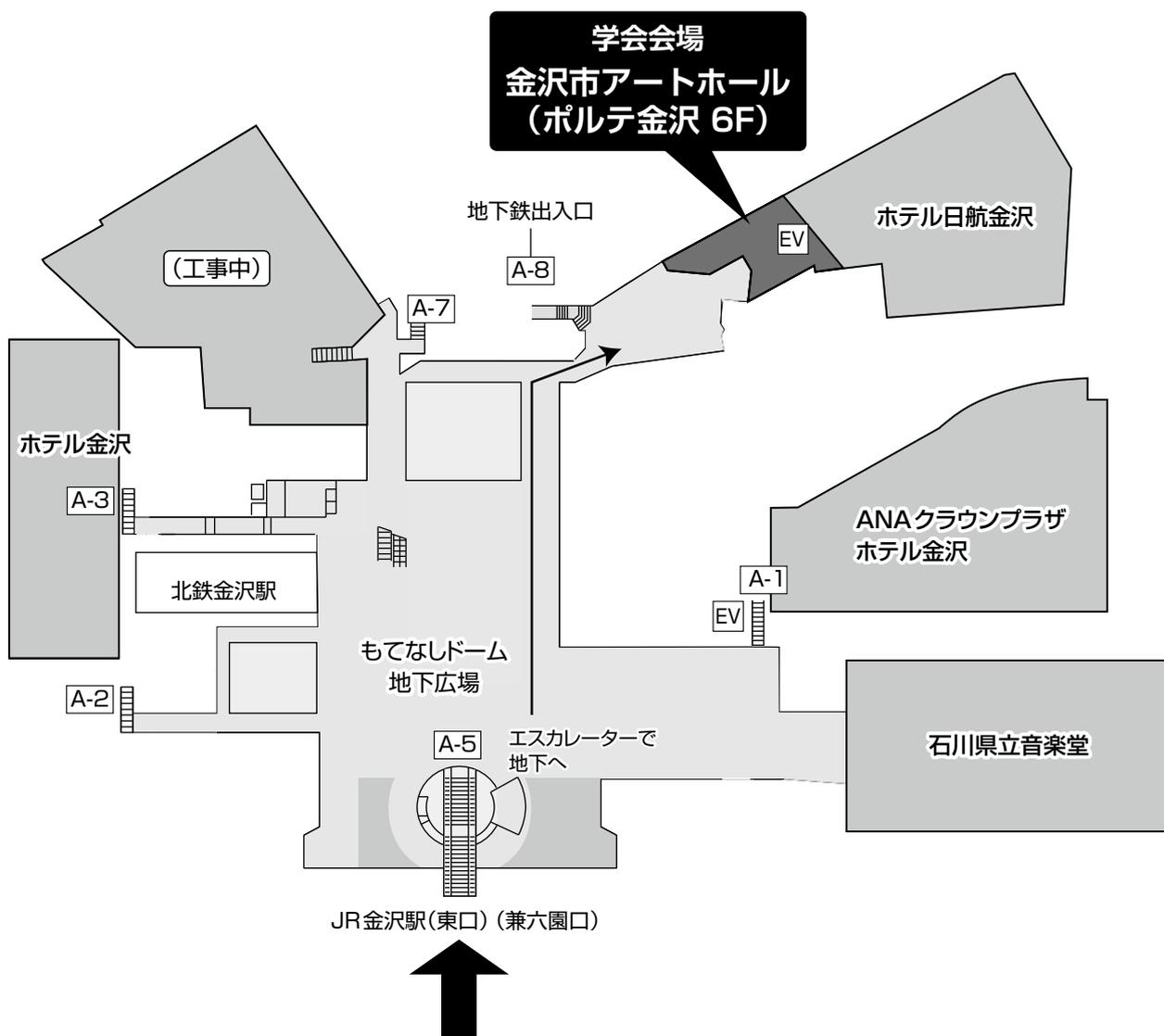
飛行機を利用(小松空港着→金沢までバスで約40分)

- 羽田から 約1時間
- 成田から 約1時間



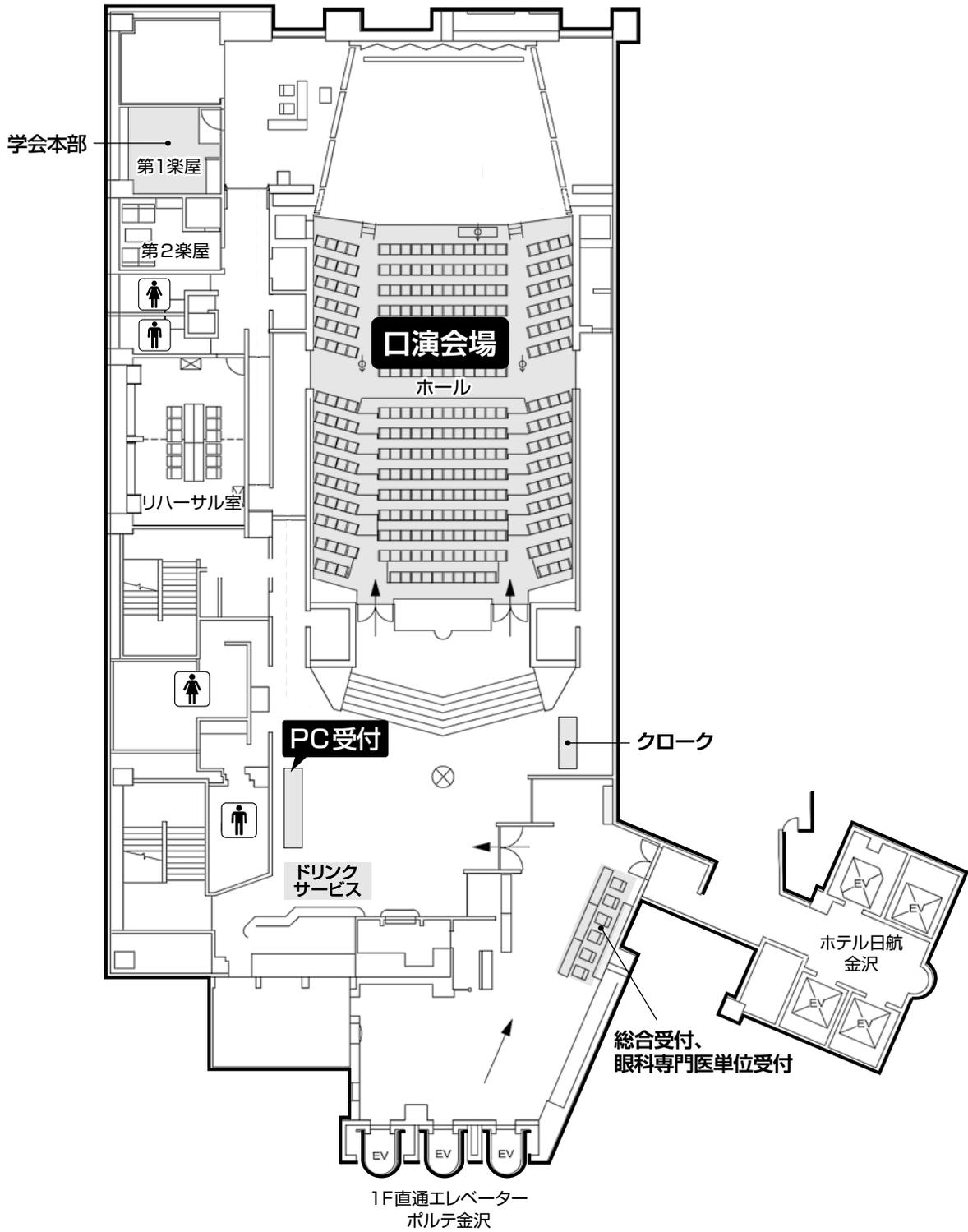
金沢駅から会場へ地下道からのアクセス

金沢駅東もてなしドーム地下広場



会場案内図

6F アートホール



参加者へのご案内

参加登録受付

受付場所	金沢市アートホール(ポルテ金沢6階) 会場入口
受付時間	11月3日(土) 8:30~17:00
	11月4日(日) 8:30~12:00

受付方法

〈事前登録された方〉

事前に送付したネームカードを忘れずにご持参ください。受付にて講演抄録集とネームカードホルダーをお受け取りください。

〈当日登録される方〉

会場入口受付にて参加登録を行ってください。

参加登録費

登録区分	当日参加登録料	懇親会費
会員 医師	10,000円	8,000円
非会員 医師	12,000円	8,000円
初期研修医・コメディカル	4,000円	5,000円
大学院生を除く学生 (医学生、視能訓練士学生、留学生)	無 料	5,000円
医師以外の大学院生	4,000円	5,000円
非医師、民間研究員	12,000円	5,000円

※会員登録は日本眼腫瘍学会ホームページからのみ受け付けております。当日に登録はできません。

※初期研修医・コメディカルおよび医師以外の大学院生の方は所属長による身分を証明する書類が必要です。予め、ホームページより登録区分証明書をダウンロードして必要事項をご記入の上、ご持参ください。

※大学院生を除く学生の方は、登録時に学生証をご提示頂きますので、忘れずお持ちください。

※上記以外の登録区分の方の登録費については事務局までご連絡ください。

ネームカード

所属・氏名をご記入の上、入場の際は必ずご着用ください。ネームカードを着用されていない方の入場は、固くお断り致します。

講演抄録集

講演抄録集は当日に配布いたします。事前登録がお済みの方にはホームページにてPDF形式で配布いたします。

PDF 閲覧パスワード kanazawa36

追加の講演抄録集をご希望の場合には、受付にて1部1,000円にて販売致します。

懇親会

日時	11月3日(土) 18:30～
場所	ホテル日航金沢3階《孔雀の間》(学会会場隣接)

※事前登録がお済みの方でも、懇親会当日受付が可能です。多数のご参加をお待ちしております。

※参加費は医師8,000円、医師以外5,000円です。当日申し込みも受け付けております。

総合受付にてお申し込みください

日本眼科学会専門医制度生涯教育事業

日本眼科学会専門医制度登録証(カード)を必ずご持参ください

受付場所	金沢市アートホール(ポルテ金沢6階) 会場入口
受付時間 取得単位	11月3日(土) 8:30～17:00 3単位
	11月4日(日) 8:30～12:00 2単位

クローク

金沢市アートホール(ポルテ金沢6階)にクロークをご用意致しますのでご利用ください

受付場所	金沢市アートホール(ポルテ金沢6階) 会場入口 クローク受付
受付時間	11月3日(土) 8:30～18:30
	11月4日(日) 8:30～13:00

※必ず時間内にお受け取り下さい。

※貴重品のお預かりはできません。各自で管理をお願いします。

会場での注意

会場内での録音、写真撮影およびビデオ撮影はご遠慮ください。

会場内では携帯電話、スマートフォンはマナーモードに切り替えるか、電源をお切りください。

会場内は飲食不可です(ランチョンセミナー開催時を除く)。飲食はホワイエをお願いいたします。

関連会議

日本眼腫瘍学会 理事会	日時: 11月3日(土) 12:20～13:20 会場: 金沢市アートホール(ポルテ金沢6階) リハーサル室
日本眼腫瘍学会 総会	日時: 11月3日(土) 13:30～13:40

共催セミナー

ランチョンセミナーではお弁当をご用意いたします。

数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。なお、整理券の配布はいたしません。

駐車場

学会専用の駐車場のご用意はございません。公共交通機関をご利用ください。

講演規定

本学会の講演はデジタルプレゼンテーション [1面] による発表のみとなります。

講演時間

一般口演の発表時間は、発表6分、質疑応答5分、計11分です。

特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーは指定された時間をお願いします。

時間厳守をお願い致します。

進 行

発表は、ご自身で演台上にてマウスとキーボードを操作して行ってください。PC を持込みの場合でも、PC 本体は演台上にはありませんので、PowerPoint の発表者ツールや Keynote の発表者ディスプレイ機能は使用できません。

演者は、座長の指示のもと口演を行ってください。

座長は、セッション開始10分前までに次座長席にお着きください。

演者は、発表開始10分前までに次演者席にお着きください。

利益相反に関して

今回の学会発表の内容に関する利益相反について、ホームページのサンプルを参考に発表時に2枚目(タイトルの次)のスライドにて開示してください。

デジタルプレゼンテーションに関するご案内

[講演データ持参の場合 (Windows のみ)]

会場に設置される機材のスペックは下記の通りです。

ノートパソコン：DELL LATITUDE 3330

OS：Windows 7 Pro

アプリケーション：PowerPoint 2003～2016

推奨フォント：Windows 版 MS 明朝 / MS ゴシック / Times New Roman / Century

プロジェクター：Panasonic PT-DZ870

プロジェクター解像度：1920 × 1200 ドット (WUXGA) まで対応可能

講演データは作成に使用した PC 以外の PC で動作確認をしてからお持ちください。

解像度を XGA (1024 × 768) にあわせてレイアウトの確認をしてください。

保存時のデータファイル名は「演題番号_演者氏名.ppt」「演題番号_演者氏名.pptx」としてください。

システムの都合で、PowerPoint の発表者ツールはご使用できません。

講演データは USB メモリか CD-R で持参してください。

事前に講演データ、および持参するメディアのウイルスチェックを必ず行ってください。

講演データは PC 受付にて事務局が用意したパソコンに一旦コピーさせていただきます。

お預かりしたメディアは受付後にご返却いたしますが、念のため、発表時にご持参ください。

コピーした講演データは学会終了後、事務局が責任を持って消去いたします。

[PC をお持ち込みになる場合 (Windows、Macintosh とも可能)]

Mac でご発表の場合、及び講演データに動画を含む場合は、ご自身の PC をお持ち込みください。

持込み PC は PC 本体にミニ D-sub15 ピン外部出力コネクタを使える物に限ります。変換コネクタを必要とする場合は、必ずご自身でご用意ください。

AC アダプターは必ずご持参ください。

省電力設定、スクリーンセーバー、ウイルスチェックは、予め解除しておいてください。

スリープからの復帰時、起動時のパスワードは解除しておいてください。

万一に備えて、バックアップ用データ (USB メモリ、CD-R など) もご持参ください。

PC 受付にての試写終了後、そのままお預かりいたします。発表終了後に PC 受付でご返却いたします。

タブレット端末でのご発表はできません。

[データの受付]

• PC 受付

PC 受付は講演会場横 (ホール下手袖中) となります。

必ず PC 受付にて受付をお済ませください。

PC 本体持込みの場合も動作確認のために必ずお立ち寄りください。

• データ受付時間

2018年11月3日(土) 8:30~16:00(翌日のデータも受け付けます)

2018年11月4日(日) 8:30~11:00

講演開始1時間前(早朝に発表される方は30分前)までにデータをご提出ください。

スライド作成における注意事項

スライドは参加者が容易に理解できるように作成してください

[スライドの文字数]

1枚のスライドに多くの文字を配置する込み入ったスライドはお避けください。

[スライド提示時間と講演内容]

スライドに掲載されている内容を把握するのに十分な提示時間と講演内容のバランスに配慮してください。

[字詰まりスライドを避ける]

字詰まりスライドは判読が困難です。

[使用する色ならびに混合色への配慮]

1枚のスライドに多数の色を使用することは避けてください。背景色と文字とのコントラストが十分にあるものにしてください。

討論者の方へ

討論時間は5分です。討論者は予め会場内の討論用マイクの近くでお待ちください。

セッションの進行状況により、討論がキャンセルされることがありますので、ご了承ください。

日本眼腫瘍学会役員一覧

役職別 50音順(2018年9月現在)

名譽会員(敬称略)	役 職	氏 名	所 属
雨宮 次生	理 事 長	古田 実	福島県立医科大学
猪俣 孟	理 事	安積 淳	神戸海星病院
上野 脩幸	理 事	江口 功一	江口眼科医院/新潟大学
大西 克尚	理 事 (監 事)	大島 浩一	国立病院機構岡山医療センター
沖坂 重邦	理 事 (学術・広報)	小幡 博人	埼玉医科大学総合医療センター
金子 明博	理 事	嘉島 信忠	聖隷浜松病院
玉井 信	理 事 (監 事)	兒玉 達夫	島根大学
松尾 信彦	理 事	後藤 浩	東京医科大学
箕田 健生	理 事	敷島 敬悟	東京慈恵会医科大学
物故会員	理 事 (学術・広報)	鈴木 茂伸	国立がん研究センター中央病院
加藤桂一郎	理 事	高橋 寛二	関西医科大学
	理 事	高比良雅之	金沢大学
	理 事	高村 浩	公立置賜総合病院/山形大学
	理 事	辻 英貴	がん研究会有明病院
	理 事	林 暢紹	須崎くろしお病院/高知大学
	理 事	溝田 淳	帝京大学
	理 事	吉川 洋	宗像眼科クリニック/九州大学
	顧 問	中村 泰久	愛知医科大学
	顧 問	八子 恵子	北福島医療センター
	顧 問	小島 孚允	小島眼科医院/さいたま赤十字病院

学会の歴史

回	会 期	会 場	会 長
第 1 回	1983年(S58)6月10日	富山医科薬科大学病院	中村 泰久 富山医科薬科大学
第 2 回	1984年(S59)10月20日	京大会館	雨宮 次生 京都大学
第 3 回	1985年(S60)9月7日	九大同窓会館	猪俣 孟 九州大学
第 4 回	1986年(S61)8月16日	順大有山記念講堂	沖坂 重邦 防衛医科大学
第 5 回	1987年(S62)9月20日	福島グリーンパレス	加藤桂一郎 福島県立医科大学
第 6 回	1988年(S63)9月4日	国際研究交流会館	金子 明博 国立がんセンター
第 7 回	1989年(H1)11月18日	岡大医学部図書館	松尾 信彦 岡山大学
第 8 回	1990年(H2)7月27日	仙台市民会館	玉井 信 東北大学
第 9 回	1991年(H3)8月2日	北大学術交流会館	松田 英彦 北海道大学
第10回	1992年(H4)6月20日	幕張メッセ国際会議場	箕田 健生 帝京大学市原
第11回	1993年(H5)10月6日	長崎大学医学部記念講堂	雨宮 次生 長崎大学
第12回	1994年(H6)9月26日	九大同窓会館	猪俣 孟 九州大学
第13回	1995年(H7)8月10～11日	高知県教育会館	上野 脩幸 高知医科大学
第14回	1996年(H8)10月5日	興和ビル大ホール	沖坂 重邦 防衛医科大学
第15回	1997年(H9)10月25日	裏磐梯猫魔ホテル	加藤桂一郎 福島県立医科大学
第16回	1998年(H10)9月5日	国際研究交流会館	金子 明博 国立がんセンター
第17回	1999年(H11)9月25日	大宮ソニックシティホール	小島 孚允 大宮赤十字病院
第18回	2000年(H12)6月23日	仙台市民会館	玉井 信 東北大学
第19回	2001年(H13)9月1～2日	ホテルコンコルド浜松	中村 泰久 聖隷浜松病院
第20回	2002年(H14)9月14日	和歌山県立医科大学病院	大西 克尚 和歌山県立医科大学
第21回	2003年(H15)10月9日	岡山コンベンションセンター	大島 浩一 岡山医療センター
第22回	2004年(H16)7月17日	高知市文化プラザ	上野 脩幸 高知大学
第23回	2005年(H17)6月25日	新潟県医師会館大講堂	江口 功一 新潟大学
第24回	2006年(H18)7月28日	札幌医科大学記念ホール	大塚 賢二 札幌医科大学
第25回	2007年(H19)9月29日	大阪赤十字病院 4F 講堂	柏井 聡 大阪赤十字病院
第26回	2008年(H20)11月22日	東京医科大学 6 階臨床講堂	後藤 浩 東京医科大学
第27回	2009年(H21)6月20日	山形大学医学部同窓会館	高村 浩 山形大学
第28回	2010年(H22)9月25日	アクトシティ浜松コンgresセンター	嘉島 信忠 聖隷浜松病院
第29回	2011年(H23)6月25～26日	コラッセふくしま	古田 実 福島県立医科大学
第30回	2012年(H24)6月30日～7月1日	栃木県総合文化センター	小幡 博人 自治医科大学
第31回	2013年(H25)9月14～15日	高知市総合あんしんセンター	林 暢紹 須崎くろしお病院／高知大学
第32回	2014年(H26)7月11～12日	静岡県浜松市プレスタワー 静岡新聞ホール	辻 英貴 がん研有明病院
第33回	2015年(H27)10月3～4日	くにびきメッセ	兒玉 達夫 島根大学
第34回	2016年(H28)10月1～2日	シマブンビル	安積 淳 神戸海星病院
第35回	2017年(H29)9月23～24日	両国 KFC ホール	溝田 淳 帝京大学
第36回	2018年(H30)11月3～4日	金沢市アートホール	高比良雅之 金沢大学

日本眼腫瘍学会会則 Japanese Society of Ocular Oncology (JSOO)

第1章 総則

(名 称)

第1条 本会は日本眼腫瘍学会 (Japanese Society of Ocular Oncology, JSOO) と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を福島県立医科大学眼科学講座(〒960-1295 福島県福島市光が丘1)に置く。理事会の承認を得たうえで、会計業務など運営の一部を学会運営業者に委託することができる。

第2章 目的および事業

(目 的)

第3条 本会は眼腫瘍に関する最新の情報交換と会員相互の研鑽を目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。
(1) 総会の開催
(2) 会誌の発行
(3) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(種 別)

第5条 本会の会員は、眼腫瘍に興味を持つ眼科医(含:研修医)およびその他の関係者をもって構成する。
(1) 正会員
(2) 顧問
(3) 名誉会員
(4) 賛助会員

(入 会)

第6条 入会を希望する者は、所定の入会申込書に年会費を添えて本会事務局に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第7条 顧問は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。
顧問は、本学会の運営が適正に行われるよう理事会等において指導する立場にある。

第8条 名誉会員は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。

第9条 賛助会員は、本会の事業を授助するため所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。

(入会員および会費)

第10条 正会員(顧問を含む)の年会費は5,000円とする。なお、賛助会員の年会費は50,000円とする。

第11条 名誉会員は年会費を免除する。

(資格の喪失)

第12条 会員が次の各号に該当した場合は、その資格を喪失するものとする。

- (1) 退会したとき
- (2) 理事会の議決によって除名されたとき

(退 会)

第13条 会員が退会する場合には、事前にその旨を本会事務局に届け出なければならない。

(除 名)

第14条 会員が次の各号に該当するときは、理事会の議決により退会させることがある。

- (1) 本会会員として著しく品位を欠く行為があったとき
- (2) 会費を3年以上滞納したとき

第4章 役員

(役 員)

第15条 本会に次の役員をおく。

- (1) 理 事 長 1名
- (2) 理 事 若干名
- (3) 監 事 2名
- (4) 学術・広報 2名
- (5) 総 会 長 1名

(理 事)

第16条 理事は理事会を構成し、会の運営に必要な諸事項を審議決定する。

第17条 理事長は理事の互選によって選出される。理事長は本会を代表し、会務を掌握し、理事会を招集する。
理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について、総会もしくはその他の方法により、会員に報告しなければならない。

(監事)

第18条 監事は理事会で選出される。監事は本会の財産、会計および会務の執行を監査し、理事会に出席して意見を述べるができる。

(総会長)

第19条 総会長は理事会で選出される。総会長は当該年度の総会運営に当たる。

(役員の任期と欠員について)

第20条 理事長、理事、監事、学術・広報の任期は3年間とする。ただし、理事長は連続して再任されない。また、理事は再任を妨げない。理事の年齢は65歳を超えないこととする。役員に欠員が生じた場合の補充とその方法については、理事会でこれを決定する。総会長の任期は担当する総会が終了するまでとし、次年度総会長にその職務を引き継ぐものとする。総会長は連続して就任することはできない。ただし、再任を妨げない。

第5章 総会・理事会

(総会)

第21条 原則として総会を毎年1回開催する。開催時期は理事会と総会長の合議で決定する。総会での筆頭演者は本学会員でなければならない。総会長は会員以外の者を総会に招請し、総会で発表させることができる。

(理事会)

第22条 理事会は理事をもって組織し、原則として総会期間中に以下の事項を審議する。なお、理事会には理事長、総会長の承認を経て、関係者の参加を許可することができる。

- (1) 毎年度の事業および会計
- (2) その他、理事会が必要と認めた事項
- (3) 理事会は理事の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、予め委任状を提出した者は出席者とみなす。
- (4) 理事会の審議は出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは理事長の決するところによる。

第6章 会計

(会計年度)

第23条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了とする。

(事務局の経費)

第24条 本会の事務局の運営に要する経費は年会費をもってこれに充てる。

(総会の運営費)

第25条 総会の運営費は総会の都度、参加費などを徴収してこれに充てる。参加費の額は年度毎に総会長が決定する。会員以外の講演者を総会に招請した場合、総会長もしくは理事会の裁量により、参加費を免除することができる。

第7章 会則の変更

(会則の変更)

第26条 この会則は理事会の議決を経て変更することができる。

[附則]

この会則は平成22年10月10日から施行する。
最終改変日：平成29年9月23日。

日程表

1日目 11月3日(土) 金沢市アートホール (ポルテ金沢6階)

2日目 11月4日(日) 金沢市アートホール (ポルテ金沢6階)

9:00	8:55~9:00 開会式
	9:00~9:55 一般口演1 01~05 [眼瞼・結膜1] 座長：高村 浩(公立置賜総合病院) 吉川 洋(宗像眼科クリニック)
10:00	9:55~11:01 一般口演2 06~11 [眼内] 座長：高橋 寛二(関西医科大学附属枚方病院) 古田 実(福島県立医科大学)
11:00	11:09~12:15 一般口演3 12~17 [眼窩1] 座長：敷島 敬悟(東京慈恵会医科大学) 林 暢紹(須崎くろしお病院)
12:00	12:30~13:20 ランチョンセミナー 前視野緑内障の診断と治療戦略 座長：杉山 和久(金沢大学) 共催：参天製薬株式会社
13:00	12:20~13:20 理事会 会場 リハーサル室
	13:30~13:40 総会
	13:40~13:50 眼腫瘍登録+希少がんWG報告
14:00	13:50~14:56 一般口演4 18~23 [総論/眼瞼・結膜2] 座長：小幡 博人(埼玉医科大学総合医療センター) 安積 淳(神戸海星病院)
15:00	14:56~15:51 一般口演5 24~28 [涙道/リンパ増殖疾患] 座長：大島 浩一(国立病院機構岡山医療センター) 江口 功一(江口眼科医院)
16:00	16:04~17:10 一般口演6 29~34 [涙腺/IgG4関連疾患] 座長：後藤 浩(東京医科大学) 辻 英貴(がん研有明病院)
17:00	17:10~18:10 特別講演 IgG4関連疾患の諸臓器病変ならびに悪性腫瘍との関連 —内科、病理診断科、放射線科の視点から—
18:00	18:30~ 懇親会 会場：ホテル日航金沢 3階《孔雀の間》(学会会場隣接)

9:00	9:00~10:00 シンポジウム 眼領域の血管腫とその類縁疾患 座長：後藤 浩(東京医科大学) 古田 実(福島県立医科大学) 演者：盛 秀嗣(関西医科大学) 田邊 美香(九州大学) 上田 幸典(聖隷浜松病院)
10:00	10:09~11:15 一般口演7 35~40 [眼窩2/眼瞼・結膜3] 座長：兒玉 達夫(島根大学医学部附属病院) 嘉島 信忠(聖隷浜松病院)
11:00	11:15~12:10 一般口演8 41~45 [メラノーマ] 座長：溝田 淳(帝京大学) 鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)
12:00	12:10~12:20 閉会式・次期会長挨拶

演者：大久保 真司(おおくほ眼科クリニック/金沢大学)
川瀬 和秀(岐阜大学)

鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

座長：安積 淳(神戸海星病院)
高比良 雅之(金沢大学)
演者：川野 充弘(金沢大学 リウマチ・膠原病内科)
能登原 憲司(倉敷中央病院 病理診断科)
井上 大(金沢大学 放射線科)

プログラム

第1日目 2018年11月3日(土)

開会式 8:55~9:00

一般口演1 9:00~9:55(5題55分)

[眼瞼・結膜1]

座長：高村 浩(公立置賜総合病院 眼科)
吉川 洋(宗像眼科クリニック)

01 眼瞼に発症した石灰化上皮腫の2症例

○武田 暢生¹⁾²⁾、高比良 雅之¹⁾、濱岡 祥子¹⁾、中澤 和樹¹⁾、杉山 和久¹⁾
1)金沢大、2)やわたメディカルセンター

02 眼瞼毛包上皮腫の2例

○高木 健一¹⁾²⁾、吉川 洋¹⁾、田邊 美香¹⁾、園田 康平¹⁾
1)九州大、2)小倉医セ

03 松山赤十字病院眼科における眼瞼付属器腫瘍の検討

○児玉 俊夫¹⁾、田原 壮一郎¹⁾、井上 英紀¹⁾、平松 友佳子¹⁾、大熊 真一¹⁾、大城 由美²⁾
1)松山日赤、2)松山日赤 病理

04 遊離瞼結膜・瞼板移植片を用いた悪性眼瞼結膜腫瘍の治療

○後藤 浩
東京医大

05 眼瞼原発脂腺癌および扁平上皮癌の局所再発率とリンパ節転移率の検討

○大湊 絢¹⁾、塩崎 直哉¹⁾、尾山 徳秀¹⁾²⁾、張 大行¹⁾、福地 健郎¹⁾
1)新潟大、2)うおぬま眼科

一般口演2 9:55~11:01(6題66分)

[眼内]

座長：高橋 寛二(関西医科大学附属枚方病院)
古田 実(福島県立医科大学 医学部 眼科学教室)

06 傍乳頭血管腫に対して光化学療法を行った1例

○細川 英理奈、酒井 浩之、吉津 和真、北川 達士、溝田 淳
帝京大

07 孤立性脈絡膜血管腫に対するベルテポルフィンによる光線力学療法の効果

○関 瑛子、田邊 美香、秋山 雅人、藤井 裕也、左野 裕介、塩瀬 聡美、吉川 洋、園田 康平
九州大

08 眼内に生じたメトトレキセート関連リンパ増殖性疾患の1例

○曾根 久美子、臼井 嘉彦、藤井 敬子、後藤 浩
東京医大

09 Cavitory choroidal schwannoma の1例

- 杉原 一暢¹⁾、兒玉 達夫¹⁾²⁾、谷戸 正樹¹⁾、鈴宮 淳司²⁾、岩橋 輝明³⁾、丸山 理留敬³⁾
1)島根大 眼科、2)島根大 先端がん治療センター、3)島根大 病理部

10 神経線維腫症1型患者に多発した脈絡膜悪性黒色腫の一例

- 福原 崇子¹⁾、福原 淳一¹⁾²⁾、加瀬 諭¹⁾、後藤田 裕子³⁾、石田 晋¹⁾
1)北海道大、2)網走厚生病院、3)札幌厚生病院 病理診断科

11 転移性脈絡膜腫瘍15例の検討

- 塩瀬 聡美、吉川 洋、田邊 美香、山名 佳奈子、高木 健一、有田 量一、園田 康平
九州大

一般口演3 11:09~12:15(6題66分)

[眼窩1]

座長：敷島 敬悟(東京慈恵会医科大学 眼科学講座)
林 暢紹(須崎くろしお病院)

12 眼窩粘液腫の1例

- 末岡 健太郎¹⁾、末岡 千絵²⁾、二井 宏紀²⁾、黒木 一彦³⁾、木内 良明¹⁾
1)広島大、2)広島総合病院、3)広島総合病院 脳神経外科

13 視神経膠腫の治療：生命予後と機能予後

- 柳澤 隆昭¹⁾²⁾、山岡 正慶³⁾、本多 隆也³⁾、秋山 政晴³⁾、福岡 講平²⁾、鈴木 智成²⁾、
西川 亮²⁾、野中 雄一郎¹⁾、敷島 敬吾⁴⁾
1)東京慈恵医大 脳外科、2)埼玉医大国際医療セ 脳脊髄腫瘍科、3)東京慈恵医大 小児科、
4)東京慈恵医大

14 視神経膠腫の鑑別診断

- 柳澤 隆昭¹⁾²⁾、山岡 正慶³⁾、本多 隆也³⁾、秋山 政晴³⁾、福岡 講平²⁾、鈴木 智成²⁾、
西川 亮²⁾、野中 雄一郎¹⁾、敷島 敬吾⁴⁾
1)東京慈恵医大 脳外科、2)埼玉医大国際医療セ 脳脊髄腫瘍科、3)東京慈恵医大 小児科、
4)東京慈恵医大

15 悪性転化がみられた2例

- 高村 浩¹⁾、宇都宮 寛¹⁾、林 思音²⁾、山木 哲³⁾、園田 順彦³⁾、加藤 智也⁴⁾、山川 光徳⁴⁾、
山下 英俊²⁾
1)公立置賜総合病院、2)山形大、3)山形大 脳神経外科、4)山形大 病理診断学

16 ナビゲーションシステムを併用した眼窩腫瘍摘出術の一例

- 半沢 友理¹⁾、敷島 敬悟¹⁾、馬場 昭典¹⁾、道下 将太郎²⁾、赤崎 安晴²⁾
1)東京慈恵医大 眼科、2)東京慈恵医大 脳外科

17 外眼筋生検が診断に有用であった転移性悪性黒色腫の一例

- 赤羽 聡子¹⁾、黒川 徹¹⁾、鳥山 佑一¹⁾、上原 剛²⁾、御子柴 育朋³⁾、村田 敏規¹⁾、
高比良 雅之⁴⁾
1)信州大、2)信州大 病態解析、3)信州大 皮膚科、4)金沢大

[前視野緑内障の診断と治療戦略]

講演1 OCT を活用した前視野緑内障の診断と経過観察

大久保 真司 おおくぼ眼科クリニック/金沢大学

講演2 前視野緑内障に対する治療指針の提案

川瀬 和秀 岐阜大学

鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

[総論/眼瞼・結膜2]

座長：小幡 博人(埼玉医科大学総合医療センター 眼科)

安積 淳(神戸海星病院 眼科)

18 眼腫瘍全国登録(J-COTS)に向けた院内がん登録データベース

○古田 実、大口 泰治、石龍 鉄樹
福島県医大

19 眼瞼悪性腫瘍の診療科

○大口 泰治、古田 実、石龍 鉄樹
福島県医大

20 眼瞼脂腺癌におけるアンドロゲンレセプターの発現と臨床病理学的特徴

○柚木 達也
富山大

21 結膜悪性黒色腫における VEGF の発現

○加瀬 諭、菊地 郁、石田 晋
北海道大

22 マイトマイシンC点眼加療が有効であった眼瞼結膜悪性腫瘍の2例

○中野 里絵子、大湊 絢、塩崎 直哉、張 大行、福地 健郎
新潟大

23 広範囲にわたる角膜浸潤と視力低下をきたした結膜扁平上皮癌の3症例

○脇田 遼、馬詰 和比古、後藤 浩
東京医大

一般口演5 14:56～15:51(5題55分)

[涙道／リンパ増殖疾患]

座長：大島 浩一(国立病院機構岡山医療センター 眼科)
江口 功一(江口眼科医院)

24 涙嚢に生じた扁平上皮癌に対する化学放射線療法

○辻 英貴¹⁾、吉田 淳¹⁾、高田 幸子¹⁾、福島 啓文²⁾、利安 隆史³⁾、仲野 兼司⁴⁾、
佐藤 由紀子⁵⁾
1)がん研病院、2)がん研病院 頭頸科、3)がん研病院 放治科、4)がん研病院 総腫科、
5)がん研病院 病理

25 健康寿命を越した93歳涙道悪性腫瘍の1例

○柏木 広哉¹⁾、鬼塚 哲郎²⁾、木谷 卓志²⁾、尾上 剛志³⁾、安富 由紀⁴⁾
1)県立静岡がんセンター 眼科、2)県立静岡がんセンター 頭頸部外科、
3)県立静岡がんセンター 放射線治療科、4)県立静岡がんセンター 患者家族支援センター

26 腫瘍摘出術中に著明な動脈出血をきたした眼窩反応性リンパ過形成の1例

○加瀬 諭、水門 由佳、石嶋 漢、石田 晋
北海道大

27 結膜および眼窩内に生じた悪性リンパ腫の組織学的分類と局在についての統計学的検討

○山中 亜規子、渡辺 彰英、中山 知倫、外園 千恵
京都府医大

28 海星病院で病理診断した眼科領域のリンパ腫

○安積 淳¹⁾、勝山 敦子²⁾
1)神戸海星病院、2)神戸大

一般口演6 16:04～17:10(6題66分)

[涙腺／IgG4関連疾患]

座長：後藤 浩(東京医科大学 眼科学教室)
辻 英貴(がん研有明病院 眼科)

29 我々の涙腺腫瘍全摘出時の手術方法

○尾山 徳秀¹⁾²⁾³⁾、大湊 絢²⁾、塩崎 直哉²⁾、張 大行⁴⁾、江口 功一⁵⁾、福地 健郎²⁾
1)うおぬま眼科、2)新潟大、3)長岡日赤、4)魚沼基幹病院、5)江口眼科

30 眼科受診を契機に診断した多発血管炎性肉芽腫症

○笠松 広嗣¹⁾²⁾、黒川 徹²⁾、鳥山 佑一²⁾、小林 翔太³⁾、山本 洋⁴⁾、村田 敏規²⁾
1)長野日赤、2)信州大、3)信州大 病理、4)信州大 呼吸器内科

31 涙腺上皮性腫瘍に類似していた IgG4 関連涙腺炎の 2 例

○大島 浩一¹⁾、神農 陽子²⁾

1) 岡山医療センター、2) 岡山医療センター 臨床検査

32 IgG4 関連眼疾患生検組織および末梢血における形質芽細胞の解析

○白井 嘉彦

東京医大

33 冠動脈病変を伴った IgG4 関連眼疾患の 1 例

○水門 由佳¹⁾²⁾、加瀬 諭²⁾、下山 修平³⁾、石田 晋²⁾

1) 滝川市立病院、2) 北海道大、3) 北海道大学病院 内科Ⅱ

34 確診群および非確診群の IgG4 関連眼疾患における長期結果

○久保田 敏信

名古屋医療センター

特別講演 17:10～18:10

座長：安積 淳（神戸海星病院 眼科）

高比良 雅之（金沢大学 眼科）

〔 IgG4 関連疾患の諸臓器病変ならびに悪性腫瘍との関連
— 内科、病理診断科、放射線科の視点から — 〕

SL1 IgG4 関連疾患の諸臓器病変ならびに悪性腫瘍との関連
内科の視点から

川野 充弘 金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科

SL2 IgG4 関連疾患の病理診断とその問題点

能登原 憲司 倉敷中央病院 病理診断科

SL3 IgG4 関連疾患の諸臓器病変の画像所見と鑑別すべき疾患
（悪性腫瘍を中心に） — 放射線科の視点から —

井上 大 金沢大学 放射線科

懇親会 18:30～

ホテル日航金沢 3階《孔雀の間》（学会会場隣接）

第2日目 2018年11月4日(日)

シンポジウム 9:00~10:00(60分)

座長：後藤 浩(東京医科大学 眼科学教室)

古田 実(福島県立医科大学 医学部 眼科学教室)

[眼領域の血管腫とその類縁疾患]

S1 網脈絡膜の病変

盛 秀嗣 関西医大・枚方

S2 眼瞼・結膜血管性病変の診かた

田邊 美香 九州大

S3 眼窩病変の診断・治療

上田 幸典 聖隷浜松病院

一般口演7 10:09~11:15(6題66分)

[眼窩2/眼瞼・結膜3]

座長：兒玉 達夫(島根大学医学部附属病院)

嘉島 信忠(聖隷浜松病院)

35 涙腺導管嚢胞に対する手術方法の選択

○藤原 美幸¹⁾、大島 浩一²⁾

1)岡山大学、2)岡山医療センター

36 眼窩に発生した神経周膜腫の1例

○谷下 紗季¹⁾、坂本 麻里²⁾、金井 友範¹⁾、長井 隆行²⁾、安積 淳¹⁾

1)神戸海星病院、2)神戸大

37 転移性眼窩内腫瘍に定位放射線治療をおこなった2症例

○中谷 雄介¹⁾²⁾、小出 謙一³⁾、高仲 強⁴⁾、大西 寛明⁵⁾、光田 幸彦⁵⁾、高比良 雅之⁶⁾

1)氷見なかに眼科、2)厚生連高岡病院 眼科、3)厚生連高岡病院 脳神経外科、
4)厚生連高岡病院 放射線科、5)浅ノ川総合病院 脳神経外科、6)金沢大 眼科

38 超高齢者の眼部腫瘍治療に関する問題点

○鈴木 茂伸

国がん中央

39 長期間放置され巨大化した眼瞼脂腺癌の2例

○小島 孚允

小島眼科医院

40 当院における眼瞼脂腺癌61症例の臨床像と組織学的検討

○中山 知倫
京都府医大

一般口演 8 11:15～12:10(5題55分)

[メラノーマ]

座長：溝田 淳(帝京大学医学部)

鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

41 インターフェロン β で加療した結膜悪性黒色腫の経過

○高野 史生
神戸海星病院

42 当院における悪性黒色腫の長期経過

○橋本 祐子¹⁾、中井 駿一郎¹⁾、坂本 麻里¹⁾、長井 隆行¹⁾、安積 淳²⁾、中村 誠¹⁾
1)神戸大、2)神戸海星病院

43 脈絡膜悪性黒色腫に対して炭素イオン線照射後硝子体手術を行い良好視力が得られた1例

○西尾 真以¹⁾、酒井 浩之¹⁾、近藤 尚明¹⁾、溝田 淳¹⁾、牧島 弘和²⁾³⁾、辻 比呂志²⁾³⁾
1)帝京大、2)国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構、3)放射線医学総合研究所

44 脈絡膜悪性黒色腫の骨転移にニボルマブが奏効した1例

○竹森 勇人¹⁾、高比良 雅之¹⁾、濱岡 祥子¹⁾、前田 進太郎²⁾、杉山 和久¹⁾
1)金沢大、2)金沢大学病院 皮膚科

45 当科におけるぶどう膜悪性黒色腫の転移症例の経過についての検討

○塩崎 直哉¹⁾、大湊 絢¹⁾、張 大行²⁾、尾山 徳秀¹⁾³⁾、梅森 幸恵⁴⁾、福地 健郎¹⁾
1)新潟大、2)魚沼基幹病院、3)うおぬま眼科、4)長岡日赤

閉会式・次期会長挨拶 12:10～12:20

特別講演
抄 録

SL1

IgG4 関連疾患の諸臓器病変ならびに悪性腫瘍との関連
内科の視点から

川野 充弘(かわの みつひろ)

金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科



略 歴

1987年3月	金沢大学医学部 卒業
1993年4月	金沢大学大学院医科学研究科 修了
1996年4月	鳴和総合病院 内科医長
1999年4月	金沢社会保険病院 血液浄化療法部部长
2003年5月	金沢大学医学部保健学科 看護学講座 講師
2005年4月	金沢大学医学部附属病院 リウマチ・膠原病内科 助手
2006年10月	金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科 講師 (科長、病院臨床教授)

現在に至る

IgG4関連疾患は、中高年の男性に好発する原因不明の慢性炎症性全身疾患である。ほとんど全ての臓器に病変を形成し得るが、好発臓器は膵臓、涙腺、唾液腺、腎臓、大動脈周囲/後腹膜の5つである。これらの臓器に病変があり生検が可能であれば、特徴的な病理所見を確認することにより診断は比較的容易である。自己免疫疾患よりは、むしろアレルギーとの関連が示唆されており、気管支喘息やアレルギー性鼻炎をしばしば合併する。ステロイドが著効するが、約30%の症例で再発が報告されており、ステロイドの維持療法も含めた注意深いフォローが必要である。また、IgG4関連疾患は、傷害臓器に腫大、腫瘤、結節、肥厚性病変を形成する疾患であるため、単一臓器病変である場合や、生検で病理所見が確認できない場合、しばしば悪性腫瘍との鑑別が問題となる。更に、経過中に悪性腫瘍を合併し易い疾患と考えられており、いくつかの施設から、約10%の症例に悪性腫瘍の合併が認められたと報告された。悪性腫瘍の中では、悪性リンパ腫の頻度が高く、眼科領域でIgG4関連疾患を背景にしたIgG4産生MALTリンパ腫の報告もある。しかしながら、全身精査によるバイアスを考慮すると、悪性腫瘍の合併率はコントロールと同等との報告もあり、更に多数の症例での検討が望まれる。

【利益相反】なし

A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, providing a guide for handwriting practice.

一 般 口 演
抄 録

01

眼瞼に発症した石灰化上皮腫の
2症例

○武田 暢生(たけだ のぶお)¹⁾²⁾、高比良 雅之¹⁾、
濱岡 祥子¹⁾、中澤 和樹¹⁾、杉山 和久¹⁾

1)金沢大、2)やわたメディカルセンター

【緒言】眼瞼に発症した石灰化上皮腫(毛母腫)の2症例を提示する。

【症例】症例1は10歳女性で、およそ3か月の経過で増大した上眼瞼皮下の暗紫色腫瘤にて当科を受診した。右上眼瞼縁と眉毛の中間の高さの皮下に横径10mm程度の硬い腫瘤を触知した。CTでは皮下に限局した境界明瞭な腫瘍がみられ、石灰化は明瞭ではなかった。MRIでは内部は不均一で、T1強調像脂肪抑制、T2強調像ともに高信号主体だった。血管性病変も疑われたが造影効果は軽微だった。全身麻酔下で腫瘍の全摘出を行い、病理にて石灰化上皮腫と診断された。症例2は39歳男性で、約2か月の経過で増大した上眼瞼縁の腫瘤にて当科を受診した。右上眼瞼縁から突出する径7mmの球状の紫紅色腫瘤がみられた。局所麻酔下で腫瘍を切除し、病理にて石灰化上皮腫と診断された。それぞれ術後早期(3~5か月)の再発はみられず、経過観察中である。

【考按・結論】石灰化上皮腫は顔面、上肢、頭頸部などの皮膚に好発する腫瘍であり、眉毛部を含む眼瞼にもみられるため眼科領域での報告も散見される。その肉眼的所見や画像的特徴は多様で、発症部位によって様々な病態を示し、結膜側に突出し角膜障害をきたす例も報告されている。ときに霰粒腫との鑑別が問題となるが、自然治癒は望めないので速やかに全摘出手術を計画すべきである。石灰化上皮腫は眼瞼腫瘍の鑑別診断として認知すべきである。

【利益相反】なし

02

眼瞼毛包上皮腫の2例

○高木 健一(たかき けんいち)¹⁾²⁾、吉川 洋¹⁾、
田邊 美香¹⁾、園田 康平¹⁾

1)九州大、2)小倉医セ

【緒言】毛包上皮腫は顔面に好発する毛芽由来の稀な良性腫瘍である。眼科領域では本邦での報告は少ない。今回我々は眼瞼に生じた毛包上皮腫の2例を経験したので報告する。

【症例】

〈症例1〉90歳、男性。左上眼瞼腫瘍を切除希望し九州大学受診。左上眼瞼やや外側の瞼縁に1.5×1.5mmの境界明瞭な白色腫瘍を認めた。腫瘍部には軽度の睫毛禿を認めた。腫瘍を切除すると、切除組織はH-E染色で、類基底細胞が核の柵状配列を伴って巣状に増殖しており角質嚢胞を伴っていた。腫瘍と周囲組織の間には明らかな裂隙を認めず、毛包上皮腫と診断した。切除後2年明らかな腫瘍再発は認めていない。

〈症例2〉82歳、男性。5年前から増大傾向を示す左上眼瞼腫瘍を主訴に九州大学受診。左上眼瞼やや外側の瞼縁に、10×7mmの境界明瞭な黄白色の弾性硬の腫瘍を認め、腫瘍部に軽度の睫毛禿を伴っていた。マイボーム腺開口部付近まで腫瘍が及んでいたが、マイボグラフィでは腫瘍部の腺房構造は保たれていた。腫瘍を切除すると、切除組織はH-E染色で均一な柵状配列を呈する類基底細胞と扁平上皮細胞が結節状に増殖していた。腫瘍内部には小さい角質嚢胞を認め、明らかな核分裂像は認めなかった。腫瘍と周囲組織の間には明らかな裂隙を認めないことから、毛包上皮腫と診断した。切除後2か月明らかな腫瘍再発は認めていない。

【結論】眼瞼毛包上皮腫の2例を経験した。2例とも軽度の睫毛禿を伴っていた。

【利益相反】なし

第37回日本眼腫瘍学会のご案内

会 期：2019年9月28日(土)～29日(日)

会 場：虎ノ門ヒルズフォーラム

会 長：敷島 敬悟

事 務 局：東京慈恵会医科大学 眼科学講座
〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

運営事務局：株式会社 エヌ・プラクティス内
〒541-0046 大阪市中央区平野町1-8-13
平野町八千代ビル7F
TEL：06-6203-6731 FAX：06-6203-6730

第36回日本眼腫瘍学会 プログラム・抄録集

会 長：高比良 雅之

事務局：金沢大学眼科内
担当：濱岡 祥子、島 佐千代
〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1
TEL：076-265-2403 FAX：076-222-9660
E-mail：jsoo2018@med.kanazawa-u.ac.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>